機能的な8の字動線

お住まい拝見

Tさん宅

木造
自由設計
家族３人

子どもも猫も健やかに暮らせる住宅を目指し、家造り日奔走したTさん夫妻。「居住性もデザイン性、年を重ねても使いやすい動線など調和の取れた家になりました」と笑いながら口をそろえた。建築士の自邸の見学会などに足を運び、思い描いた高性能でランニングコストが抑えられる木造住宅で過ごしている。

住宅は平屋に直方体の2階建てがくっついた形。1階はLDKや夫婦の寝室、サニタリーを含む水回りを、2階は子どもの居室をまとめた。

LDKは構造の柱と梁によって空間を4エリアに緩やかに分割。一角はワークスペースになっており、「家族の一体感を保ちながら、各ゾーンでリラックスできる」とTさん。庭に面する掃き出し窓をはじめ、各窓は複層ガラスとアルミ樹脂サッシを組み合わせている。「帰宅しても室内はサラリとした感じ。インテリアも木の素材感を生かした上質な大空間になりました」とも話した。

また、1階は8の字で回遊できる動線＝平面図参照＝となっており、玄関からの表動線（LDK）と裏動線（サニタリー・水回り）を結ぶ回遊ルート。夫人は「非常に移動しやすく、高齢になっても1階だけで生活が完結。長く安心して暮らせる」と話した。

月の電気代 大幅に減

高性能な住宅を選んだ理由の一つが月々の電気代だった。以前暮らしていたアパートはエアコンを稼働させても室内が冷えにくく、「月額の電気代が2～3万円ほど」と夫妻は振り返る。太陽光パネルや蓄電池などを導入し、新居の光熱費は夜間の使用分となり、「数千円程度に大幅に下がりました。月々の負担が減ったのもうれしいし、『何かの間違いじゃないか』と驚きました」。

性能のほか、キャットウオークとしても登れる棚をワークスペースに設け、釣ってきた魚をさばけるよう外水栓などを配置した。夫妻は「引っ越す前の悩みも解消され、想定以上に満足いく住まいとなりました」と話した。



LDKは柱・梁により、一つの空間を奇麗にゾーニング。キッチンから時計回りにダイニング、リビング、ワークスペースとなっている。床やカウンターテーブルなど造作家具にもふんだいに木を使い、「木の香りとぬくもりで満たされる空間にしました」と建築士の岸田さん





（上）キッチンに隣接するサニタリー。食糧や衣類の収納スペースや物干し場、洗面台などを一つにまとめ、使い勝手抜群
（右）玄関からの入り口とは別に開口を設け、来客用の動線とTさん一家だけの動線が奇麗に分けられている

平面図

